

【目次】

- 自分の身は自分で守ろう
- 文科省 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査をうけて
- 【特集】不登校の子どもへのかかわり②

\*\*\*\*\*

□自分の身は自分で守ろう

\*\*\*\*\*

●インフルエンザ等の予防対策を徹底しよう！

インフルエンザが例年に比べ2か月以上も早く流行期に入りました。予防には、①ワクチン接種 ②外出後の手洗い ③適切な湿度（50～60％）の保持 ④十分な休養とバランスのとれた栄養摂取などの基本的な対策を行うことが大切です。学校では、「学校等欠席者・感染症情報システム」により、地域における感染症の流行情報や児童生徒の欠席状況を適切に把握するとともに、学校医の助言を得るなど、早めの予防対策を徹底し、校内での流行を防ぎましょう。

●無灯火自転車に乗らない！

少しずつ日が短くなり、夕方暗くなる時間が早くなってきました。ライトを点けることで危険に早く気づき回避できるだけでなく、車の運転手など周囲に気づいてもらうことで衝突などの事故を回避することができます。自転車の利用で被害者にも加害者にもならないために、ライトの点灯など「自転車利用五則」を徹底しましょう。

※「自転車利用五則」[https://www.npa.go.jp/koutsuu/kikaku/bicycle/pdf/bicycle\\_leaflet.pdf](https://www.npa.go.jp/koutsuu/kikaku/bicycle/pdf/bicycle_leaflet.pdf)

\*\*\*\*\*

□文科省 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査をうけて

\*\*\*\*\*

●いじめの認知件数や小・中学校の不登校児童生徒数が増加

平成30年度の調査結果では、大分県の小・中・高・特別支援学校におけるいじめの認知件数は、11,356件（前年度5,493件）と前年度より倍増し、児童生徒の千人当たりの認知件数は、92.4件（前年度44.2件）で全国2番目となっています。これは、各学校が児童生徒の些細な変化を見逃さず、積極的にいじめを認知し早期に対応してきた結果であると極めて肯定的に捉えています。このことを地域や保護者に十分説明をする必要があります。また、小・中学校における不登校児童生徒数は1,599人（前年度1,355人）と増加し、高校は617人（前年度648人）でした。不登校は、その要因や背景が多様・複雑なことから一人一人の状況に応じた対応が必要です。各学校においては、引き続き丁寧な児童生徒支援の取組をお願いします。

●「人間関係づくりプログラム」の紹介～「構成的グループエンカウンター」～

今年度から、より良い人間関係づくりや自尊感情を高めるための「短時間の人間関係づくりのプログラム」の実践研究に、4つの学校（別府市立境川小・由布市立由布川小・国東市立国東中・竹田市立竹田南部中）が取り組んでいます。その先進県である鳥取県や愛知県の学校では、週1回、10分間の活動の結果、児童生徒の学級適応の良好さやストレス軽減の効果が確認されています。是非、研究校の取組を参考にしてください。

※研究校の取組については、大分県教育センター教育相談部（097-569-0829）へお尋ねください。

\*\*\*\*\*

□【特集】不登校の子どもへのかかわり②

不登校を考える親の会「星の会」代表 加嶋文哉氏

\*\*\*\*\*

牛乳（学校）を無理やり飲ませない

「学校＝牛乳」と言った方がいます。牛乳は飲めば栄養になるし、みんな飲んでいいます。しかし、なかには牛乳を飲むと体調が悪くなる子どもがいる。それが不登校であると言うのです。「普通教育機会確保法」では、登校の結果をめざすのではなく、社会的自立が大切と言っています。牛乳を飲みたいのか、飲みたくなかったのかを時間をかけて一緒に考えてあげてください。そこに教師の存在意義があります。

◎メルマガに対するご意見や取り上げてほしいテーマは以下から投稿してください。

<https://www.egov-oita.pref.oita.jp/vdk9zKeA>

◎過去のバックナンバーは以下のURLから御覧いただけます。

<http://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/mailmaga.html>

配信元：大分県教育庁学校安全・安心支援課（URL：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/31450/>）